

統計の交差点

茨城県統計大会開かれる

昭和38年度茨城県統計大会は、陽春の3月水戸市内茨城会館で下記のとおり開かれます。

この統計大会は県下統計関係者の祭典として毎年盛大に行なわれております。今年もこの大会を意義あらしめるために皆様のご協力をお願いいたします。

記

主催 茨城県・茨城県統計協会
期日 昭和39年3月3日(火曜日)
会場 水戸市北三ノ丸119 茨城会館

第3次漁業センサスについて

第3次漁業センサスは、昨年11月1日現在で実施されたが、これは、第2次漁業センサスから10年目、沿岸漁業臨時調査から5年目にあたる。

調査の目的は、漁業の基本的生産構造、漁業の就業構造および漁業の背景をなす諸条件などの事項を解明することで、調査は、海面漁業基本調査、指定内水面漁業調査および漁業地区調査の3つからなっている。

調査事項は、海面漁業基本調査では、

1、漁業経営状況(漁業種類、漁船、漁業従事者、年間従業日数、漁獲物の種類、漁獲物の処理加工方法、漁業用資金の借入先など)

2、世帯および世帯員の状況(世帯員数、世帯員の年間就労状況、世帯員の自営漁業従事状況、世帯員の漁業への雇われ状況、自営農業、現金収入源、漁業補償金、配当などの有無、住居の種類など)

3、漁船の状況(漁船の取得時期、使用状況、漁船の能力など)

4、浅海養殖の状況(養殖系譜、養殖方法、養殖規模など)

指定内水面漁業調査の調査事項は、海面漁業基本調査の調査事項とだいたい同じであるが、そのほか、漁業協同組合、水産物仲買人および加工場についての事項を調査する。

漁業地区調査では、漁業地区の概況(地域範囲、世帯数、人口、産業構成、漁業の共同・集団操業、関連産業)漁港の施設、魚市場などを調査する。

この調査の狙いは、10年前の第2次漁業センサスと同じ事項を調査し、ここ10年間の漁業の変化をとらえること、今後予想される漁業の変化をとらえるために現在の漁業構造を明らかにしておくという2つのことにおかれている。

調査結果は、漁業地区、市町村・小海区、都道府県、大海区、全国とつみあげてまとめるものと、中央で集計するものがあり、結果の概要は、本年3月には公表される予定。

機械器具流通統計調査

通産省では、39年1月分調査から調査品目、調査項目などにわたって改正することになった。

この調査は、母集団を商業統計調査の調査対象としているため、商業統計調査の準備調査名簿が更新される毎に標本の設計替えが必要である。ところで昨年の商業統計調査では、かなりの調査対象商店の増加がみられたため、調査体系を現行のままにしておくことと標本数が相当増加し、調査実施上支障をきたすことになるとして調査品目、調査項目を改正することになったもの。

まず、これまでの調査品目のうち、流通段階が比較的単純で、動向の把握がある程度可能な生産財的機械器具を調査から除き、流通段階が複雑で、流通在庫の比重の大きい、耐久消費財に限定された。その結果、改正後調査品目として残るものは、家庭用ミシン、卓上扇風機、電気洗濯機、電気掃除機、電気冷蔵庫、テレビ受信機、電気蓄音機、テープレコーダー、写真機、および搬形機時計、軽4輪自動車、3輪自動車の12品目である。

次に調査項目のうち、申告者の負担を軽減し、調査を円滑に行なうため、月末在庫金額、国産品・輸入品の別輸出数量などの項目を調査からはずし、さらに都道府県の事勢負担を軽減し調査票の提出率を向上させるため、一定の事業所については、調査票を直接通産に直送することとする、などである。

「日本の人口・昭和35年国勢調査の解説」

昭和35年国勢調査報告書としては、これまでに「全国都道府市区町村別人口および世帯の概数」が35年12月に出たのを皮切りに、翌36年4月には「全国都道府市区町村別人口(確定数)」が、11月には「昭和35年国勢調査報告第1巻人口概数」が、37年に入つて第2巻「1%抽出結果」が6分冊にわけて刊行され、現在は第4巻「都道府県編」が逐次刊行されているが、これは38年中には全部の刊行が完了する予定。全国の結果は第3巻、「全国編」としてまとめられることになっている。

今回出版された「日本の人口」は1%抽出集計の結果の中から主要な結果数字をとりまとめ、それを従前の国勢調査の結果と対比して、昭和35年における日本の人口の分布・構造・変動について解説を加えたものである。

内容は、第1部国勢調査の比較、第2部日本人口の概況、第3部統計表からなっております。B5・666ページ

編集室から

先月号から本紙中の貴重な1頁をさいて、統計の交差点と題し、統計に関するいろいろなニュースや解説等、また、皆様からのご意見、ご希望等を収録、統計関係の広場といたしたいと思っております。建設的なご意見や報導など、どしどしお寄せ下さることを希望いたします。

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
総 記			都 道 府 県		
民間給与実態調査結果	37年	国 税 庁	三重県人口の将来について	37年	三 重 県
家賃調査世帯に関する 特 別 集 計	"	総 理 府 統 計 局	工業統計調査報告	"	長 野 県
国際統計要覧	38年	"	商業統計調査報告	"	東 京 都
統計行政		日本統計協会	統計年鑑	36年	香 川 県
国勢調査報告(石川県)	35年	総 理 府 統 計 局	県 勢 要 覧	37年	岐 阜 県
国勢調査報告(佐賀県)	"	"	事業所統計調査結果報告	"	千 葉 県
国勢調査報告(岡山県)	"	"	農業基本調査結果報告	"	富 山 県
従業・通学地に関する 結 果 速 報(岡山県)	"	"	県民所得推計結果速報	"	福 島 県
全 上 (山口県)	"	"	奈良県税務統計	"	奈 良 県
人 口			農業基本調査結果概要	"	奈 良 県
日 本 人 口 地 図	"	"	事 務 概 要	38年度	群 馬 県
			私 達 の く ら し	37年	静 岡 県
経 済・財 政			茨 城 県		
法人企業投資実績統計 調 査 報 告	38年11月	経済企画庁調査局	茨城農林水産統計年報 (水産編)	"	農林省茨城統計 調 査 事 務 所
株式会社分布状況調査結果	37年	大 蔵 省	県内労働年末当要求況 妥 結 状	38年	茨 城 県 労 政 課
毎月勤労統計調査総合報告書	38年	労働大臣官房労働 統 計 調 査 部	民間における初任給	38年4月	茨 城 県 会 人 事 委 員 会
産 業			衛 生 統 計 要 覧	37年	茨 城 県 衛 生 部
化学機械工業実態調査報告	37年	通産省重工業局	鉄 道 要 覧	"	水戸鉄道管理局
			国民健康保険事業状況	"	茨 城 県 国民健康 保 險 課
社 会・文 化			人 事 委 員 会 報	38年12月	茨 城 県 会 人 事 委 員 会
鉄 道 統 計 年 鑑	"	国鉄東京支社	市 の す が た	37年	水 海 道 市
鉱道車輛等生産動態統計年報	"	運輸省統計調査部			
文 部 省 8 9 年 報	36年	文 部 省 調 査 局			
第9回全国統計教育研究大 会要項一研究課題と集録一	37年	全国統計教育振興 協 議 会			
全国統計教育研究校名鑑	38年度	文 部 省 調 査 局			
給与構成調査結果報告	37年	労働大臣官房労働 統 計 調 査 部			
科学技術研究調査	38年	総 理 府 統 計 局			



人間雑話 (18)

茨城大学教授 塚本勝義

世の中の動きは日に早くなる。そのあおりを食つて、人間の観方もせつかちになつて来た。子供がよちよち歩きを始めると、もう勉強をさせたがる親がいる。よちよち歩きの時代は、歩き方練習こそ本当の勉強だといふ事実を忘れている。大切な足の訓練を忘れて、頭ばかりふくらますから、ひょうたんの出来ぞこないになりかねない。

職場にだつてこんな傾向がある。採用したての新米さんを、すぐ一人前にしたがる。あつちをつつき、こつちをつついて、こましくくれた器用な人間にしたがる。新米さんも利口に立ち廻る工夫ばかりして、仕事に徹底する本格的行き方をぞんざいにする。やがては、ちよつかいとうまい小利口者だけが揃つて、大事業を推進できるかわゆる大物がなくなつてしまう。

職場を廻すことにも、視野を広める利益もあろう。しかし、一職場に二十年も三十年もねばらせて、その職場の仕事に徹底させる必要のあることも忘れてたくない。どんな職場にだつて生字引が必要だ。いわゆる「ぬし」が必要だ。必要だ。考えないで「勘」でざぼける達人が必要だ。やたらに「たらいまわし」ばかりやつてると、あらゆる職場が、器用小利口者で埋まつてしまう。

○ ○ ○ ○

明治40年前後に「幻滅の悲哀を感じる」とか「現実暴露の悲哀」とかいう言葉がはやつた。この時期だけで幻滅の悲哀や現実暴露の悲哀は消えさつたかというところはいえない。明治よりも断然進んだ現代にも至る所にこの種の悲哀が流れ出している。

昨年の秋の頃、ある大会社の設計部の会合に出席した。30前後の若い社員が50人ぐらい集まつていた。懇談会になつたら、みんな口を揃えて、無味乾燥の仕事、定規とコンパス相手の仕事を歎いていた。みんな入社当時は日本屈指の大会社に就職できたことを大喜びした連中だ。ここにも幻滅の悲哀がくさるほどある。

ひとりぼつちの時には、美しい恋人があつたら、どんなに幸福だろうと夢にまでみる。さて、その恋人を発見し、手放しの喜びを感じるのは幾日間だろう。仕事を手につかなくなる、小づかいが足りなくなる。親爺のへこた目が光り出す、嫉妬心もカマ首をもたげてくる。こんなことなら、やつぱりひとりぼつちの方が、ずつと気

楽だつたとしみじみ思う。ここにも現実暴露の悲哀がある。

年頃になれば新婚生活を夢みる。あれだつて、文句なしに嬉しいのは二人肩を並べて家具を買い始めた時ぐらいだらう。予算が狂つて、茶だんすは来年のボーナスだなんて言い始めると、心の奥底には「こんなはずはなかつた」という、不満、不快、冷かな対立めいた気持が、景気のいい入道雲のように盛り上がりつてくる。ここにもまた、たしかに幻滅の悲哀が漂う。

遠くから眺める職場は、楽しそうで、美しそうで、うれしそうだ。ところが、いよいよ仲間入りしてみると、いやな事ばかり、いやな奴ばかり——だ。はるかに眺めてよろしいのは富士山だけではない。こんな実感だつてやはり幻滅の悲哀にちがいない。

中学生のときには高校生になつたらと思う。高校生になれば大学にはいつたらと思う。大学の門をくぐれば就職したらと思う。就職すれば役つきになつたらと思う。しかし、なつたら——の次には、きまつて幻滅の悲哀が待っている。考えてみれば、人の一生とは、幻滅の悲哀の積み重ね、現実暴露の悲哀の繰り返しだ。だから、これを歎いたり、恨んだりするのは、きまり切つてることを大騒ぎしているようなものだ。

生き抜く腹なら、初めから問題にしないがいい。あたり前の実感として、悠々と乗り越えて行くべきだろう。哀歎悲喜が出揃つて人生は完全となる。哀と悲だけを取り立てて、自分は運が悪いとか、わたしは不幸ですとかぼやく者は人生の半面だけしか見ていない。欲と喜だけ持ち廻してうぬぼれるも者、たしかにおめでたい。

○ ○ ○ ○

気に食わぬ人間はどこにいつてもいる。ところが、自分にとつては気に食わぬ奴であつても、他の人にとつては気に食う場合がざらにある。この食い違いの事実は、じつくり考える必要がある。武者小路実篤さんは、「自分の敵は、すなわち人類の敵だとはいえない」と書いておられる。ひよつとすると、僕の敵が職場の大黒柱であつたりわたしの敵がわたしの課の宝物的存在であつたりする。嫌な奴だから悪い、気に食わぬひとだから無能だと早計に判断するのは危険だ。とにかく仲間の真価は腰をすえて見究めたい。